

アフリカのゾウを象牙密猟から守るために、私たちの声を国会へ届けましょう！

象牙目的の密猟によって絶滅の危機が高まるアフリカのゾウ

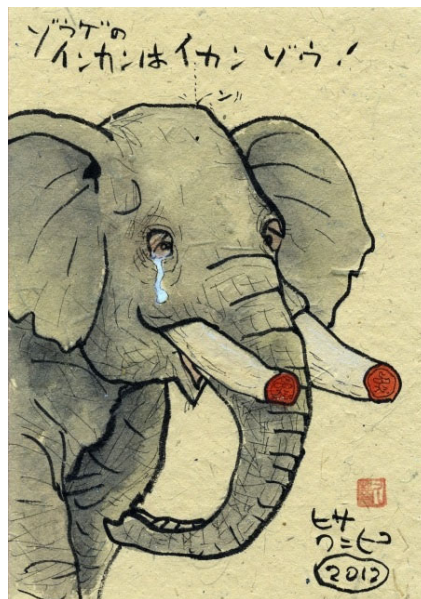
地上最大の動物にして、生物多様性の象徴であるゾウ。その生息地は、人口増加と、それに伴う農地およびインフラ開発によって失われるばかり。さらに象牙を狙った密猟者に命を奪われ、アフリカ大陸で急速に減少しています。密猟象牙は、すべてゾウを殺して奪ったものです。

密猟を止めるには、世界の国内象牙市場を閉鎖することが必要

ゾウの密猟が止まらないのは、象牙を欲しがっている人がいるため。この問題の抜本的な解決策は、世界のどこに行っても象牙は売買してはいけないものにする＝世界各国の国内象牙市場の閉鎖です。

国内象牙市場を存続させ、国際社会の批判をうける日本

185か国が加盟するワシントン条約は、1989年の象牙の国際商業取引禁止に加え、2016年に各国に対する「国内象牙市場閉鎖」勧告を採択しました。米国、中国、EUなど主要な象牙消費地では、次々に象牙の国内販売を禁止。しかし、日本は今も象牙の販売を広く許していて、国際社会から批判を受けています。



「種の保存法」の改正で国内象牙市場閉鎖の実現を

来年(2026年)には絶滅危惧種の取引規制などを行う「種の保存法」の改正案が通常国会に提出される見通しであり、そこに象牙の売買禁止が盛り込まれる可能性がでてきました。しかし、政府は、改正法案に象牙の売買禁止を盛り込む姿勢を見せていません。

私たちの声を「請願」を通じて国会に届けましょう

そこで私たちは、国会に、種の保存法改正によって国内象牙市場閉鎖を実現することを求める請願書を提出することとしました。請願の内容は、必要最小限の例外を除き、象牙売買の禁止を求めるものです。請願とは、国政に対する要望を直接国会に述べる憲法上の権利です。署名された請願書が国会で採択されれば、国会として私たちの要望に対応することになり、採択された請願が議院から内閣総理大臣へ送られれば、政府としてもこれに対応することになります。

**アフリカのゾウを象牙目的の密猟から守るため、
国内象牙市場の閉鎖を求める請願に、ご協力をお願いします！
(締切り:5月21日(水)必着とさせていただきます。)**

呼びかけ人(五十音順)

見城美枝子(青森大学前副学長、エッセイスト)、土居利光(前恩賜上野動物園園長、日本パンダ保護協会会長)、ヒサクニヒコ(漫画家)

賛同者(五十音順)

相澤登喜恵さん(動物肖像画家)、新井晴みさん(俳優)、池田卓さん(シンガーソングライター)、
井上奈奈さん(現代アーティスト)、岩田好宏さん(子どもと自然学会顧問)、
大森享さん(元北海道教育大学教授、子どもと自然学会会長)、
小川潔さん(東京学芸大学名誉教授)、小林裕児さん(画家)、
権藤真禎さん(前社団法人 兵庫県自然保護協会理事長、元神戸市立王子動物園園長)、
瀬木貴将さん(ミュージシャン)、田中豊美さん(動物画家)、並木美砂子さん(帝京科学大学特任教授)、
福井崇人さん(アートディレクター)、三浦英之さん(新聞記者・ルポライター)、森川純さん(酪農学園大学名誉教授)、
山崎薫さん(学校法人ヤマザキ学園理事長)、米倉誠一郎さん(一橋大学名誉教授)

協賛団体(五十音順)

認定 NPO 法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン、ShoeZ

国内象牙市場閉鎖を請願する実行委員会

認定 NPO 法人トラ・ゾウ保護基金、認定 NPO 法人野生生物保全論研究会、
認定 NPO 法人アフリカゾウの涙、CITES Japan Youth

ご連絡先:トラ・ゾウ保護基金

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3 階 TEL: 03-3595-8088 hogokikin@jtf.jp